



新型コロナウイルス対策として組まれた「神戸市一般会計補正予算」を審議するために緊急議会が開催され、総額約1624億円におよぶ補正予算が採決されました。議会では、感染症の拡大防止、経済支援、家庭支援、教育支援など多岐にわたる質疑が行われました。「中小企業等の店舗家賃負担の軽減補助」や市民全員に10万円を配る「特別定額給付金」等が5月より開始されます。私、いさやま大介も議案に対して質疑しました。

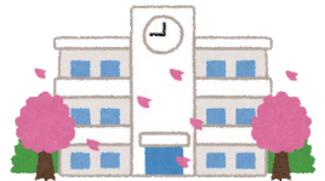
### 学校休業時における学びの保障について

#### 質疑のポイント

- ☑ 臨時休校期間中における現状において、十分な学びの保障がされているか、家庭学習を支援する取り組みはどうか。
- ☑ 定期的に電話連絡をして、家庭学習の進捗を促す仕組みも必要ではないか。
- ☑ オンライン授業の取り組みを早急に構築すべきではないか。

○ 教育長：学びの機会を保障することは、教育委員会として極めて重い課題と認識。学習に遅れが生じないようにするために、次のように家庭学習を積極的に支援していく。

- ・「学びの手順書」を提示し、教科書に基づきながら、学校再開後の授業内容の予習ができるようにする。



- ・小中学校のホームページ上に「こうべっ子家庭学習のページ」を開設し、各学校の学習課題や教育委員会が制作する授業動画を掲載する。
- ・ICT環境が整っていない家庭にも、WifiルーターやPCを貸し出す配慮をする。
- ・学習の定着が難しい児童生徒等には、学習履歴を確認しながら電話を最低一週間に1回は行ない、郵送でのやりとりも併せ持った上でしっかりと支援をしていく。



学校が再開したときに子供たちが元気に学校に集って、そして仲間とともに勉強も遊びもできるようにそういった準備を学校と児童生徒また保護者とが一緒になってしっかりとこの困難を乗り越えていくということが重要である。

○ いさやま：市立学校園の休業決定と延長は4回判断されている。2回目の休校延長が決まった4月8日からこの対応ができなかったかを指摘。また、「学習機会が失われる」というのは、教科学習のことだけでなく、多くの友達と担任の先生という人間関係がベースになって勉強や勉強以外の事を学ぶ機会のこと。「せめて声をかけてほしい」。保護者のSNS投稿を引用し、このような声にこたえるよう、伝えました。

### 医療提供体制について

発熱外来用の「仮設検査場の設置」をするべきではないか。

また、検査を速やかに行うために、かかりつけ医等の医師によるPCR検査の執行体制（ドライブスルー方式など）を構築すべきではないか。

あらゆる施策を持って、医療現場の安全確保に努めて欲しいと強く要望しました。

